

文 学 碑

中山 義秀（なかやまぎしゅう、1900年10月5日 - 1969年8月19日）は、日本の小説家。『厚物咲』で第7回芥川賞。書道美術館を出て公園に下りていく途中に中山義秀の文学碑がある。碑面には「野の花にも美しさはある 中山義秀」と彫られている。

1926年（大正15年）から八年間旧制成田中学校の英語教師として教鞭をとっていた。



中山義秀文学碑



昭和四十六年教え子達により建立

鈴木三重吉（すずきみえきち）（1882-1936）は、漱石門下の逸材 小説家・**児童文学者**
古巣はさびても小鳥はかよふ昔忘れぬ屋根の下

1908年（明治41年）10月から1911年（明治44年）4月まで、成田中学校（現成田高校）の
教頭兼英語教師として奉職（二年半）

成田中学校英語教師として教鞭を執るかたわら、代表作「小鳥の巣」を書き、小説家
児童文学者としての地歩を固めた。

当時の校長（照勤）の理解ある計らいで、約5ヶ月間休職という形で執筆された。



鈴木三重吉文学碑



平成六年「鈴木三重吉文学碑を建てる会」により建立